

おいしだ

大石田町

年頭のごあいさつ／P 2～3
将来の夢★希望／P 4～5
ニュース玉手箱／P 8～11

山形県大石田町ホームページ



携帯・スマホから
アクセスできます



表紙写真／大石田保育園団子さし(1月8日)

別冊 おおいしだものがたり ～資料館資料編～

資料館では毎年春に雛人形を展示しますが、これは本町通りで開催されるひなまつりに連動した企画です。古写真などを見ると、大石田の商家で行われてきた「お雛見」では、雛人形に関わらず様々なお人形が飾られていたことがわかります。

例年あるお宅の雛段には、真っ赤な体毛と衣服の髻面の人形が飾られます。ロシア人を模していると言われることもあるこの人形、実は端午の節句でお馴染みの鍾馗人形(しょうきょうにんぎょう)の一種です。しかし一般的に鍾馗といえは黒髪に黒髭です。なぜ赤い鍾馗があるのでしょうか。

鍾馗とは、中国の説話に登場する人物です。唐の玄宗皇帝が病に罹り高熱に苦しんでいた折、悪戯をしていた小鬼が鍾馗によって退治される夢を見ます。目が覚めると病はすっかり癒えており、以後夢で見た姿を描いて魔除けの守り神としたといわれます。このことから、古代中国では魔除けの神として鍾馗の画像を端午の節句に祀るようになりました。

日本では特に室町時代以降、漢画の画題として多くの絵師が鍾馗を描いています。また、江戸時代末頃になると、江戸を中心とする文化圏では五月人形として鍾馗人形を飾る風習が広まりました。現在の鍾馗人形はこのあたりがルーツのようです。ただしこの鍾馗人形は、元となった絵画同様黒髪黒髭で、衣服も赤くはありません。赤い鍾馗人形が生れる背景には、もう一つの重要な要因があります。それが「疱瘡絵」です。「疱瘡絵」とは浮世絵の一つのジャンルで、疱瘡(天然痘)の罹患者へのお見舞いや、疱瘡に罹らないための護符として用いられました。ここには桃太郎や金太郎、源為朝(『椿説弓張月』に為朝が疱瘡神を追い払う物語がある)といった悪鬼調伏のイメージを持つ英雄たちが描かれ、中でも多く採用されたのが鍾馗像でした。勇ましい見た目に加え、鍾馗が元来病氣平癒の信仰を持っていたからでしょう。

これらの疱瘡絵は朱色一色で刷られていたため、「赤絵」とも呼ばれます。赤(朱)は五行思想で火や太陽などと関連付けられ、邪気を払う魔除けの色だと考えられています。鍾馗等厄除けのモチーフを赤で表すことで、より強い効果を期待したことがわかります。感染率と死亡率が高いこの病に対する人々の畏怖と、病魔退散を願う切実な祈りが疱瘡絵には込められています。

以上のことから、赤い鍾馗は「疱瘡絵」を元にした鍾馗人形の変種であると考えられます。鍾馗像には学業成就という意味もありますが、赤い鍾馗像は魔除け・厄除けといった願いに特化しているといえるかもしれません。黒い鍾馗も赤い鍾馗も子どもの健やかな成長を祈るお守りとして飾られてきたものですが、そのルーツには若干の違いがあるのです。



『大石田雛人形展』は2月13日(土)から4月4日(日)まで



※この人数は外国人も含めたものです。

町の人口 令和3年1月1日現在

世帯数	2,314戸 (-5)
総人口	6,716人 (-14)
男	3,305人 (-8)
女	3,411人 (-6)

(12月中の異動)

出生	4人	転入	4人
死亡	10人	転出	12人

薬がき帳

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りします。

今年の干支が「丑(うし)」ということ、未だ新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えない中、疫病退散の願いから世間では「赤べこ」の人氣が高まっているそうです。赤べこは、福島県の会津若松市で作られてきた牛の姿をした郷土玩具で、平安時代にまん延した疫病を払った赤い牛が由来といわれており、古くから魔除けや疫病よけの縁起物として地元の人に親しまれてきたそうです。

昨年は、感染症の影響で、全国的にイベントの中止が相次ぎ、町でも大石田まつりや新そばまつり等多くのイベントが中止となりました。赤べこは、疫病退散や苦難を乗り越える象徴とのことなので、ここでは広報担当として、ぜひ手に入れなくてはと感じました。(松)